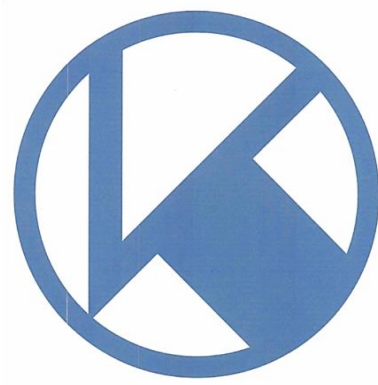


2021年度
郡山健康科学専門学校
講義概要



メディカルスポーツ柔道整復学科
3年生

学校法人こおりやま東都学園

メディカルスポーツ柔道整復学科 2021年度生 履修一覧

1年		
教育内容	科目名	国家試験 該当科目
科学的思考の 基礎 人間と生活	人間発達学	
	栄養学	
	情報処理概論	
	医療倫理	●
	運動の科学 I	
	保健体育	
	外国語	
人体の構造と機能	解剖学 I	●
	生理学 I	●
	生理学 II	●
疾病と傷害	整形外科学	●
保健医療福祉と 柔道整復の理念	医学史	
	柔道 I	●
基礎柔道整復 学	柔道整復学総論	●
	包帯法	●
	柔道整復特論 I	●
臨床柔道整復 学	臨床柔道整復学 I	●
	物理療法	●
柔道整復実技	スポーツ予防学	
	保存療法	●
	柔道整復実技 I	●
臨床実習	臨床実習 I	●

2年		
教育内容	科目名	国家試験 該当科目
科学的思考の 基礎 人間と生活	運動の科学 II	
人体の構造と機能	解剖学 II	●
	解剖学実習	●
	老年学 I	●
	スポーツ生理学	●
	運動学	●
疾病と傷害	一般臨床医学	●
	病理学概論	●
	外科学概論	●
	リハビリテーション概論	●
	柔道整復術の 適応	柔道整復術の適応
保健医療福祉と 柔道整復の理念	柔道 II	●
	公衆衛生学	●
	職業倫理	●
社会保障制度 基礎柔道整復 学	社会保障制度	●
	柔道整復特論 II	●
臨床柔道整復 学	臨床柔道整復学 II	●
	臨床柔道整復学 III	●
	臨床柔道整復学 IV	●
柔道整復実技	柔道整復実技 II	●
	柔道整復実技 III	●
	柔道整復実技 IV	●
	老年学 II	●
臨床実習	臨床実習 II	●

3年		
教育内容	科目名	国家試験 該当科目
人体の構造と機能	生体構造特論	●
	生体機能特論	●
保健医療と福祉と 柔道整復の理 基礎柔道整復 学	柔道 III	●
	関係法規	●
臨床柔道整復 学	基礎柔道整復学セミナー	●
	臨床柔道整復学セミナー 臨床的判断(画像理解)	●
柔道整復実技 臨床実習	柔道整復実技セミナー 臨床実習 III	●

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
生体構造特論		吉田 和樹		一般	担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
三年間の柔道整復学を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。 ②専門基礎分野の学習内容を反復し、より高度な知識を把握する。 ③臨床の場で正しい評価が出来るよう、鑑別診断が出来るよう総復習する。 ④ ⑤				知識・理解 問題解決力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	生体構造		臨床的知識1		グループ
2	生体構造		臨床的知識2		グループ
3	生体構造		臨床的知識3		グループ
4	生体構造		臨床的知識4		グループ
5	生体構造		臨床的知識5		グループ
6	生体構造		臨床的知識6		グループ
7	生体構造		臨床的知識7		グループ
8	生体構造		臨床的知識8		グループ
9	生体構造		臨床的知識9		グループ
10	生体構造		臨床的知識10		グループ
11	生体構造		臨床的知識11		グループ
12	生体構造		臨床的知識12		グループ
13	生体構造		臨床的知識13		グループ
14	生体構造		臨床的知識14		グループ
15	生体構造		臨床的知識15		グループ
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修『解剖学』改訂第2版 (医歯薬出版)				
	(公社)全国柔道整復師協会 監修『運動学』改訂第3版 (医歯薬出版)				
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		専門基礎(解剖学・生理学・病理学)			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】	
生体機能特論		吉田 和樹			一般	担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】	
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	後期	15(30)	講義	1	
【授業の概要・目的】						
三年間の柔道整復学を総合的に理解する。						
【学習目標(到達目標)】					【受講して得られる力】	
①柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。 ②専門基礎分野の学習内容を反復し、より高度な知識を把握する。 ③臨床の場で正しい評価が出来るよう、鑑別診断が出来るよう総復習する。 ④ ⑤					知識・理解 問題解決力 チームで働く力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法	
1	生体機能		臨床的知識1		グループ	
2	生体機能		臨床的知識2		グループ	
3	生体機能		臨床的知識3		グループ	
4	生体機能		臨床的知識4		グループ	
5	生体機能		臨床的知識5		グループ	
6	生体機能		臨床的知識6		グループ	
7	生体機能		臨床的知識7		グループ	
8	生体機能		臨床的知識8		グループ	
9	生体機能		臨床的知識9		グループ	
10	生体機能		臨床的知識10		グループ	
11	生体機能		臨床的知識11		グループ	
12	生体機能		臨床的知識12		グループ	
13	生体機能		臨床的知識13		グループ	
14	生体機能		臨床的知識14		グループ	
15	生体機能		臨床的知識15		グループ	
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%		
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修『解剖学』改訂第2版 (医歯薬出版)					
	(公社)全国柔道整復師協会 監修『運動学』改訂第3版 (医歯薬出版)					
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		専門基礎(解剖学・生理学・公衆衛生学)				
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道Ⅲ		中島 嘉和		一般	担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整備学科	3	前期	15(30)	実習	1
【授業の概要・目的】					
講道館柔道の目標とするところは、人格、精神の向上を技の向上よりも重んずることにある。柔道の修業は、攻撃防御の練習によって、己を完成し世を補益することが究極の目的である。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①初段程度の受身を習得する。 ②投形(手技・腰技・足技)受取を習得する。 ③初段程度の乱取を習得する。 ④ ⑤				前に踏み出す力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	柔道の沿革 礼法	立礼・座礼の確認 試験の柔道場への入り方・出方			ペア
2	投技(手技)1	浮落・背負投の習得			ペア
3	投技(手技)2	肩車の習得			ペア
4	投技(腰技)1	浮腰の習得			ペア
5	投技(腰技)2	払腰の習得			ペア
6	投技(腰技)3	釣込腰の習得			ペア
7	投技(足技)1	送足払の習得			ペア
8	投技(足技)2	支釣込足の習得			ペア
9	投技(足技)3	内股の習得			ペア
10	乱取1	受・取での技の習得 1			ペア
11	乱取2	受・取での技の習得 2			ペア
12	乱取3	受・取での技の習得 3			ペア
13	乱取4	受・取での技の習得 4			ペア
14	実技試験				ペア
15	解説・再試				ペア
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験 受講態度	90% 10%	
【教科書】					
【参考書】 講道館柔道 投形 DVD					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 日頃の健康管理を十分にして、欠席しないように努める。					
【本講義についての質問先】 科目責任者		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
関係法規 ※実務経験のある教員等による授業科目		高橋 洋一			接骨院(柔道整復師)10年勤務 担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
柔道整復師法、医療法について理解を深めるとともに、医師法をはじめとする医療従事者関係法規の内容について理解する。また、柔道整復師の受領委任制度、国民医療費など近年着目されている内容についても学習する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師の業務を行う上で必要不可欠である関係法規について理解する。 ②社会保険制度を理解し、その財源や問題点を知る。 ③医療事故の概要について理解し、危機管理という観点を身に着ける。 ④個人情報の保護について理解し、学生の段階から日常生活において意識する。 ⑤				知識・理解 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	序論		法の意義、体系、柔道整復師と患者の権利 (インフォームド・コンセント、医療事故と医療過誤、リスクマネジメント)		個人
2	柔道整復師法とその関連内容		総則、免許、柔道整復師国家試験、業務 (教科書①p10～28の内容を読み、要点を理解する。)		個人
3	柔道整復師法とその関連内容		施術所、広告、罰則、指定登録機関について (教科書①p29～44の内容を読み、要点を理解する。)		個人
4	柔道整復師法とその関連内容		医療従事者の資格法 (教科書①p29～44の内容を読み、要点を理解する。)		個人
5	関係法規		医療従事者の資格法 (教科書①p47～65の内容を読み、要点を理解する。)		個人
6	関係法規		医療法(総則、医療提供施設、情報の開示、安全の確保) (教科書①p66～87の内容を読み、要点を理解する。)		個人
7	社会保険関係法規		社会保障制度、国民医療費 (教科書②p1～9の内容を読み、要点を理解する。)		個人
8	社会保険関係法規		健康保険法、国民健康保険法の目的、定義 (教科書①p93～95、②p10～13の内容を読み、要点を理解する。)		個人
9	社会保険関係法規		後期高齢者医療制度の概要 (教科書①p95～97の内容を読み、要点を理解する。)		個人
10	社会保険関係法規		介護保険法の概要 (教科書①p97～99、②p6の内容を読み、要点を理解する。)		個人
11	柔道整復師業務における療養費		療養費制度の概要、支給申請書の記載 (教科書②p19～48の内容を読み、要点を理解する。)		個人
12	その他の関係法規		個人情報の保護に関する法律 (教科書①p101～104、②p63～65の内容を読み、要点を理解する。)		個人
13	職業倫理		柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応 (教科書②p49～55の内容をもとに、ディスカッションを行う。)		個人
14	職業倫理		柔道整復師の社会的責任と対応 (教科書②p56～62の内容をもとに、ディスカッションを行う。)		個人
15	まとめ		これまでの復習		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%	
【教科書】		(公社)全国柔道整復師協会 監修 『関係法規』2021年度版 (医歯薬出版)			
		(公社)全国柔道整復師協会 監修 『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』 (医歯薬出版)			
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		専門基礎(公衆衛生学)			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
基礎柔道整復セミナー(1/7)		高橋 洋一			接骨院 10年勤務 担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	(210)	講義	7
【授業の概要・目的】					
3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師が臨床において診察をする際に必要な基礎的知識を身につける。 ②選択肢を掘り下げていくことで他分野との共通点を見つけ総合力を身につける。				知識・理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	柔道整復学		基礎的知識1		個人
2	柔道整復学		基礎的知識2		個人
3	柔道整復学		基礎的知識3		個人
4	柔道整復学		基礎的知識4		個人
5	柔道整復学		基礎的知識5		個人
6	柔道整復学		基礎的知識6		個人
7	柔道整復学		基礎的知識7		個人
8	柔道整復学		基礎的知識8		個人
9	柔道整復学		基礎的知識9		個人
10	柔道整復学		基礎的知識10		個人
11	柔道整復学		基礎的知識11		個人
12	柔道整復学		基礎的知識12		個人
13	柔道整復学		基礎的知識13		個人
14	柔道整復学		基礎的知識14		個人
15	柔道整復学		基礎的知識15		個人
期末試験	卒業試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	全ての科目の教科書				
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		国家試験の出題傾向と対策			
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
基礎柔道整復セミナー(2/7)		高橋 洋一			接骨院 10年勤務 担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	(210)	講義	7
【授業の概要・目的】					
3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師が臨床において診察をする際に必要な基礎的知識を身につける。 ②選択肢を掘り下げていくことで他分野との共通点を見つけ総合力を身につける。				知識・理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	柔道整復学	基礎的知識1			個人
2	柔道整復学	基礎的知識2			個人
3	柔道整復学	基礎的知識3			個人
4	柔道整復学	基礎的知識4			個人
5	柔道整復学	基礎的知識5			個人
6	柔道整復学	基礎的知識6			個人
7	柔道整復学	基礎的知識7			個人
8	柔道整復学	基礎的知識8			個人
9	柔道整復学	基礎的知識9			個人
10	柔道整復学	基礎的知識10			個人
11	柔道整復学	基礎的知識11			個人
12	柔道整復学	基礎的知識12			個人
13	柔道整復学	基礎的知識13			個人
14	柔道整復学	基礎的知識14			個人
15	柔道整復学	基礎的知識15			個人
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	全ての科目の教科書				
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		国家試験の出題傾向と対策			
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
基礎柔道整復セミナー(3/7)		高橋 洋一			接骨院 10年勤務 担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	(210)	講義	7
【授業の概要・目的】					
3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師が臨床において診察をする際に必要な基礎的知識を身につける。 ②選択肢を掘り下げていくことで他分野との共通点を見つけ総合力を身につける。				知識・理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	柔道整復学		基礎的知識1		個人
2	柔道整復学		基礎的知識2		個人
3	柔道整復学		基礎的知識3		個人
4	柔道整復学		基礎的知識4		個人
5	柔道整復学		基礎的知識5		個人
6	柔道整復学		基礎的知識6		個人
7	柔道整復学		基礎的知識7		個人
8	柔道整復学		基礎的知識8		個人
9	柔道整復学		基礎的知識9		個人
10	柔道整復学		基礎的知識10		個人
11	柔道整復学		基礎的知識11		個人
12	柔道整復学		基礎的知識12		個人
13	柔道整復学		基礎的知識13		個人
14	柔道整復学		基礎的知識14		個人
15	柔道整復学		基礎的知識15		個人
期末試験	卒業試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	全ての科目の教科書				
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		国家試験の出題傾向と対策			
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
基礎柔道整復セミナー(4/7)		片桐 秀樹			整形外科6年 接骨院4年 開業10年 担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	(210)	講義	7
【授業の概要・目的】					
3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師が臨床において診察をする際に必要な基礎的知識を身につける。 ②選択肢を掘り下げていくことで他分野との共通点を見つけ総合力を身につける。				知識・理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	柔道整復学	基礎的知識1			個人
2	柔道整復学	基礎的知識2			個人
3	柔道整復学	基礎的知識3			個人
4	柔道整復学	基礎的知識4			個人
5	柔道整復学	基礎的知識5			個人
6	柔道整復学	基礎的知識6			個人
7	柔道整復学	基礎的知識7			個人
8	柔道整復学	基礎的知識8			個人
9	柔道整復学	基礎的知識9			個人
10	柔道整復学	基礎的知識10			個人
11	柔道整復学	基礎的知識11			個人
12	柔道整復学	基礎的知識12			個人
13	柔道整復学	基礎的知識13			個人
14	柔道整復学	基礎的知識14			個人
15	柔道整復学	基礎的知識15			個人
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	全ての科目の教科書				
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		国家試験の出題傾向と対策			
【本講義についての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
基礎柔道整復セミナー(5/7)		片桐 秀樹			整形外科6年 接骨院4年 開業10年 担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	(210)	講義	7
【授業の概要・目的】					
3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師が臨床において診察をする際に必要な基礎的知識を身につける。 ②選択肢を掘り下げていくことで他分野との共通点を見つけ総合力を身につける。				知識・理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	柔道整復学	基礎的知識1			個人
2	柔道整復学	基礎的知識2			個人
3	柔道整復学	基礎的知識3			個人
4	柔道整復学	基礎的知識4			個人
5	柔道整復学	基礎的知識5			個人
6	柔道整復学	基礎的知識6			個人
7	柔道整復学	基礎的知識7			個人
8	柔道整復学	基礎的知識8			個人
9	柔道整復学	基礎的知識9			個人
10	柔道整復学	基礎的知識10			個人
11	柔道整復学	基礎的知識11			個人
12	柔道整復学	基礎的知識12			個人
13	柔道整復学	基礎的知識13			個人
14	柔道整復学	基礎的知識14			個人
15	柔道整復学	基礎的知識15			個人
期末試験	卒業試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	全ての科目の教科書				
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		国家試験の出題傾向と対策			
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
基礎柔道整復セミナー(6/7)		成田 昌健			一般 担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	(210)	講義	7
【授業の概要・目的】					
3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師が臨床において診察をする際に必要な基礎的知識を身につける。 ②選択肢を掘り下げていくことで他分野との共通点を見つけ総合力を身につける。				知識・理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	柔道整復学		基礎的知識1		グループ
2	柔道整復学		基礎的知識2		グループ
3	柔道整復学		基礎的知識3		グループ
4	柔道整復学		基礎的知識4		グループ
5	柔道整復学		基礎的知識5		グループ
6	柔道整復学		基礎的知識6		グループ
7	柔道整復学		基礎的知識7		グループ
8	柔道整復学		基礎的知識8		グループ
9	柔道整復学		基礎的知識9		ペア
10	柔道整復学		基礎的知識10		ペア
11	柔道整復学		基礎的知識11		ペア
12	柔道整復学		基礎的知識12		ペア
13	柔道整復学		基礎的知識13		ペア
14	柔道整復学		基礎的知識14		ペア
15	柔道整復学		基礎的知識15		ペア
期末試験	卒業試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	全ての科目の教科書				
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		国家試験の出題傾向と対策			
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
基礎柔道整復セミナー(7/7)		福 安喜			一般 担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	(210)	講義	7
【授業の概要・目的】					
3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師が臨床において診察をする際に必要な基礎的知識を身につける。 ②選択肢を掘り下げていくことで他分野との共通点を見つけ総合力を身につける。				知識・理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	柔道整復学		基礎的知識1		個人
2	柔道整復学		基礎的知識2		個人
3	柔道整復学		基礎的知識3		個人
4	柔道整復学		基礎的知識4		個人
5	柔道整復学		基礎的知識5		個人
6	柔道整復学		基礎的知識6		個人
7	柔道整復学		基礎的知識7		個人
8	柔道整復学		基礎的知識8		個人
9	柔道整復学		基礎的知識9		個人
10	柔道整復学		基礎的知識10		個人
11	柔道整復学		基礎的知識11		個人
12	柔道整復学		基礎的知識12		個人
13	柔道整復学		基礎的知識13		個人
14	柔道整復学		基礎的知識14		個人
15	柔道整復学		基礎的知識15		個人
期末試験	卒業試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	全ての科目の教科書				
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		国家試験の出題傾向と対策			
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学セミナー(1/7)		学科教員		一般	担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	後期	(210)	講義	7
【授業の概要・目的】					
3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。 ②専門基礎分野の学習内容を反復し、より高度な知識を把握する。 ③臨床の場で正しい評価が出来るよう、鑑別診断が出来るよう総復習する。 ④ ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	柔道整復学 理論		一般臨床系知識1		グループ
2	柔道整復学 理論		一般臨床系知識2		グループ
3	柔道整復学 理論		一般臨床系知識3		グループ
4	柔道整復学 理論		一般臨床系知識4		グループ
5	柔道整復学 理論		一般臨床系知識5		グループ
6	柔道整復学 理論		一般臨床系知識6		グループ
7	柔道整復学 理論		一般臨床系知識7		グループ
8	柔道整復学 理論		一般臨床系知識8		グループ
9	柔道整復学 理論		一般臨床系知識9		グループ
10	柔道整復学 理論		一般臨床系知識10		グループ
11	柔道整復学 理論		一般臨床系知識11		グループ
12	柔道整復学 理論		一般臨床系知識12		グループ
13	柔道整復学 理論		一般臨床系知識13		グループ
14	柔道整復学 理論		一般臨床系知識14		グループ
15	柔道整復学 理論		一般臨床系知識15		グループ
期末試験	卒業試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	国家試験出題の全ての科目の教科書				
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		国家試験の出題傾向と対策			
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学セミナー(2/7)		学科教員		一般	担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	後期	(210)	講義	7
【授業の概要・目的】					
3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。 ②専門基礎分野の学習内容を反復し、より高度な知識を把握する。 ③臨床の場で正しい評価が出来るよう、鑑別診断が出来るよう総復習する。 ④ ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	柔道整復学 理論		整形外科的臨床知識1		グループ
2	柔道整復学 理論		整形外科的臨床知識2		グループ
3	柔道整復学 理論		整形外科的臨床知識3		グループ
4	柔道整復学 理論		整形外科的臨床知識4		グループ
5	柔道整復学 理論		整形外科的臨床知識5		グループ
6	柔道整復学 理論		整形外科的臨床知識6		グループ
7	柔道整復学 理論		整形外科的臨床知識7		グループ
8	柔道整復学 理論		整形外科的臨床知識8		グループ
9	柔道整復学 理論		整形外科的臨床知識9		グループ
10	柔道整復学 理論		整形外科的臨床知識10		グループ
11	柔道整復学 理論		整形外科的臨床知識11		グループ
12	柔道整復学 理論		整形外科的臨床知識12		グループ
13	柔道整復学 理論		整形外科的臨床知識13		グループ
14	柔道整復学 理論		整形外科的臨床知識14		グループ
15	柔道整復学 理論		整形外科的臨床知識15		グループ
期末試験	卒業試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	国家試験出題の全ての科目の教科書				
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		国家試験の出題傾向と対策			
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学セミナー(3/7)		学科教員		一般	担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	後期	(210)	講義	7
【授業の概要・目的】					
3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。 ②専門基礎分野の学習内容を反復し、より高度な知識を把握する。 ③臨床の場で正しい評価が出来るよう、鑑別診断が出来るよう総復習する。 ④ ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	柔道整復学 理論		公衆衛生的臨床知識1		グループ
2	柔道整復学 理論		公衆衛生的臨床知識2		グループ
3	柔道整復学 理論		公衆衛生的臨床知識3		グループ
4	柔道整復学 理論		公衆衛生的臨床知識4		グループ
5	柔道整復学 理論		公衆衛生的臨床知識5		グループ
6	柔道整復学 理論		公衆衛生的臨床知識6		グループ
7	柔道整復学 理論		公衆衛生的臨床知識7		グループ
8	柔道整復学 理論		リハビリ的臨床知識1		グループ
9	柔道整復学 理論		リハビリ的臨床知識2		グループ
10	柔道整復学 理論		リハビリ的臨床知識3		グループ
11	柔道整復学 理論		リハビリ的臨床知識4		グループ
12	柔道整復学 理論		リハビリ的臨床知識5		グループ
13	柔道整復学 理論		リハビリ的臨床知識6		グループ
14	柔道整復学 理論		リハビリ的臨床知識7		グループ
15	柔道整復学 理論		リハビリ的臨床知識8		グループ
期末試験	卒業試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	国家試験出題の全ての科目の教科書				
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		国家試験の出題傾向と対策			
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学セミナー(4/7)		学科教員		一般	担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	後期	(210)	講義	7
【授業の概要・目的】					
3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。 ②専門基礎分野の学習内容を反復し、より高度な知識を把握する。 ③臨床の場で正しい評価が出来るよう、鑑別診断が出来るよう総復習する。 ④ ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	柔道整復学 理論		外科的臨床知識1		グループ
2	柔道整復学 理論		外科的臨床知識2		グループ
3	柔道整復学 理論		外科的臨床知識3		グループ
4	柔道整復学 理論		外科的臨床知識4		グループ
5	柔道整復学 理論		外科的臨床知識5		グループ
6	柔道整復学 理論		外科的臨床知識6		グループ
7	柔道整復学 理論		外科的臨床知識7		グループ
8	柔道整復学 理論		外科的臨床知識8		グループ
9	柔道整復学 理論		外科的臨床知識9		グループ
10	柔道整復学 理論		外科的臨床知識10		グループ
11	柔道整復学 理論		外科的臨床知識11		グループ
12	柔道整復学 理論		外科的臨床知識12		グループ
13	柔道整復学 理論		外科的臨床知識13		グループ
14	柔道整復学 理論		外科的臨床知識14		グループ
15	柔道整復学 理論		外科的臨床知識15		グループ
期末試験	卒業試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	国家試験出題の全ての科目の教科書				
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		国家試験の出題傾向と対策			
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学セミナー(5/7)		学科教員		一般	担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	後期	(210)	講義	7
【授業の概要・目的】					
3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。 ②専門基礎分野の学習内容を反復し、より高度な知識を把握する。 ③臨床の場で正しい評価が出来るよう、鑑別診断が出来るよう総復習する。 ④ ⑤				知識・理解 情報活用能力 問題解決力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	柔道整復学 理論		臨床柔道整復術知識1		グループ
2	柔道整復学 理論		臨床柔道整復術知識2		グループ
3	柔道整復学 理論		臨床柔道整復術知識3		グループ
4	柔道整復学 理論		臨床柔道整復術知識4		グループ
5	柔道整復学 理論		臨床柔道整復術知識5		グループ
6	柔道整復学 理論		臨床柔道整復術知識6		グループ
7	柔道整復学 理論		臨床柔道整復術知識7		グループ
8	柔道整復学 理論		臨床柔道整復術知識8		グループ
9	柔道整復学 理論		臨床柔道整復術知識9		グループ
10	柔道整復学 理論		臨床柔道整復術知識10		グループ
11	柔道整復学 理論		臨床柔道整復術知識11		グループ
12	柔道整復学 理論		臨床柔道整復術知識12		グループ
13	柔道整復学 理論		臨床柔道整復術知識13		グループ
14	柔道整復学 理論		臨床柔道整復術知識14		グループ
15	柔道整復学 理論		柔道整復臨床知識15		グループ
期末試験	卒業試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	国家試験出題の全ての科目の教科書				
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		国家試験の出題傾向と対策			
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学セミナー(6/7)		学科教員		一般	担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	後期	(210)	講義	7
【授業の概要・目的】					
3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。 ②専門基礎分野の学習内容を反復し、より高度な知識を把握する。 ③臨床の場で正しい評価が出来るよう、鑑別診断が出来るよう総復習する。 ④ ⑤				知識・理解 情報活用能力 問題解決力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	柔道整復学 理論		関係法規知識1		グループ
2	柔道整復学 理論		関係法規知識2		グループ
3	柔道整復学 理論		関係法規知識3		グループ
4	柔道整復学 理論		関係法規知識4		グループ
5	柔道整復学 理論		関係法規知識5		グループ
6	柔道整復学 理論		関係法規知識6		グループ
7	柔道整復学 理論		関係法規知識7		グループ
8	柔道整復学 理論		関係法規知識8		グループ
9	柔道整復学 理論		関係法規知識9		グループ
10	柔道整復学 理論		関係法規知識10		グループ
11	柔道整復学 理論		関係法規知識11		グループ
12	柔道整復学 理論		関係法規知識12		グループ
13	柔道整復学 理論		関係法規知識13		グループ
14	柔道整復学 理論		関係法規知識14		グループ
15	柔道整復学 理論		関係法規知識15		グループ
期末試験	卒業試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	国家試験出題の全ての科目の教科書				
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		国家試験の出題傾向と対策			
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学セミナー(7/7)		学科教員		一般	担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	後期	(210)	講義	7
【授業の概要・目的】					
3年間の柔道整復学の基礎を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師が臨床において治療をする際に必要な臨床的知識を身につける。 ②専門基礎分野の学習内容を反復し、より高度な知識を把握する。 ③臨床の場で正しい評価が出来るよう、鑑別診断が出来るよう総復習する。 ④ ⑤				知識・理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	柔道整復学 理論		柔道系知識1		グループ
2	柔道整復学 理論		柔道系知識2		グループ
3	柔道整復学 理論		柔道系知識3		グループ
4	柔道整復学 理論		柔道系知識4		グループ
5	柔道整復学 理論		柔道系知識5		グループ
6	柔道整復学 理論		医療概論系知識1		グループ
7	柔道整復学 理論		医療概論系知識2		グループ
8	柔道整復学 理論		医療概論系知識3		グループ
9	柔道整復学 理論		医療概論系知識4		グループ
10	柔道整復学 理論		医療概論系知識5		グループ
11	柔道整復学 理論		社会保障系知識1		グループ
12	柔道整復学 理論		社会保障系知識2		グループ
13	柔道整復学 理論		社会保障系知識3		グループ
14	柔道整復学 理論		社会保障系知識4		グループ
15	柔道整復学 理論		社会保障系知識5		グループ
期末試験	卒業試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	国家試験出題の全ての科目の教科書				
【参考書】	柔道整復師国家試験過去問題集				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		国家試験の出題傾向と対策			
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床的判断		高野 正和			一般 担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
柔道整復師が関与する運動器の臨床画像(MRI、CT、X-P、超音波)について、基本的撮影方法～医師の読影方法まで理解し、臨床現場での対応力を高める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①各種画像診断装置の名称およびしくみを理解する。 ②各種画像診断装置の撮影方法を理解する。 ③各種画像診断装置の読影方法を理解する。 ④ ⑤				考え抜く力 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	各種画像診断装置の種類と特長	MRI、CT、X-P、超音波画像の特徴と違いについて学ぶ。			グループ
2	各種画像診断装置の注意点	装置および画像の取り扱いについて注意点を学ぶ。			グループ
3	各種画像診断装置の撮影と読影方法①	MRIの撮影および読影方法について学ぶ。			グループ
4	各種画像診断装置の撮影と読影方法②	CTの撮影および読影方法について学ぶ。			グループ
5	各種画像診断装置の撮影と読影方法③	X-Pの撮影および読影方法について学ぶ。			グループ
6	各種画像診断装置の撮影と読影方法④	X-Pの撮影および読影方法について学ぶ。			グループ
7	各種画像診断装置の撮影と読影方法⑤	X-Pの撮影および読影方法について学ぶ。			グループ
8	各種画像診断装置の撮影と読影方法⑥	超音波画像の撮影および読影方法について学ぶ。			グループ
9	各種画像診断装置の撮影と読影方法⑦	超音波画像の撮影および読影方法について学ぶ。			グループ
10	各種画像診断装置の撮影と読影方法⑧	超音波画像の撮影および読影方法について学ぶ。			グループ
11	臨床画像判断①	MRI画像所見から傷病名を判断できるよう学ぶ。			グループ
12	臨床画像判断①	CT画像所見から傷病名を判断できるよう学ぶ。			グループ
13	臨床画像判断①	X-P画像所見から傷病名を判断できるよう学ぶ。			グループ
14	臨床画像判断①	超音波画像所見から傷病名を判断できるよう学ぶ。			グループ
15	総まとめ	復習			グループ
期末試験	レポート提出	評価方法	レポート 受講態度	80% 20%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修『柔道整復学・実技編』改訂第2版 (南江堂) (公社)全国柔道整復師協会 監修『柔道整復学・理論編』改訂第6版 (南江堂)				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		解剖学、生理学などの基礎医学知識			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技セミナー(1/7)		中島 嘉和			一般 担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	(210)	演習	7
【授業の概要・目的】					
三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①上肢の骨折における診察および整復・固定能力の向上を行う。 ②臨床的整復・固定を修得する。 ③認定実技審査の合格を目指すことを目標とする。 ④ ⑤				前に踏み出す力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	上肢の骨折	鎖骨骨折の診察及び整復・固定①			ペア・グループ
2	上肢の骨折	鎖骨骨折の診察及び整復・固定②			ペア・グループ
3	上肢の骨折	鎖骨骨折の診察及び整復・固定③			ペア・グループ
4	上肢の骨折	鎖骨骨折の診察及び整復・固定④			ペア・グループ
5	上肢の骨折	上腕骨外科頸骨折の診察及び整復①			ペア・グループ
6	上肢の骨折	上腕骨外科頸骨折の診察及び整復②			ペア・グループ
7	上肢の骨折	上腕骨外科頸骨折の診察及び整復③			ペア・グループ
8	上肢の骨折	上腕骨外科頸骨折の診察及び整復④			ペア・グループ
9	上肢の骨折	コーレス骨折の診察及び整復・固定①			ペア・グループ
10	上肢の骨折	コーレス骨折の診察及び整復・固定②			ペア・グループ
11	上肢の骨折	コーレス骨折の診察及び整復・固定③			ペア・グループ
12	上肢の骨折	コーレス骨折の診察及び整復・固定④			ペア・グループ
13	実技試験				個人
14	実技試験				個人
15	解説・再試				グループ
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験	100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)				
	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『包帯固定学』 改訂第2版 (南江堂)				
【参考書】	認定実技審査要領				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。			
【本講義についての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技セミナー(2/7)		中島 嘉和			一般 担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	(210)	演習	7
【授業の概要・目的】					
三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①上肢の脱臼における診察および整復・固定能力の向上を行う。 ②臨床的整復・固定を修得する。 ③認定実技審査の合格を目指すことを目標とする。 ④ ⑤				前に踏み出す力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	上肢の脱臼	肩関節前方脱臼の診察及び整復・固定①			ペア・グループ
2	上肢の脱臼	肩関節前方脱臼の診察及び整復・固定②			ペア・グループ
3	上肢の脱臼	肩関節前方脱臼の診察及び整復・固定③			ペア・グループ
4	上肢の脱臼	肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復・固定①			ペア・グループ
5	上肢の脱臼	肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復・固定②			ペア・グループ
6	上肢の脱臼	肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復・固定③			ペア・グループ
7	上肢の脱臼	肘関節後方脱臼の診察及び整復・固定①			ペア・グループ
8	上肢の脱臼	肘関節後方脱臼の診察及び整復・固定②			ペア・グループ
9	上肢の脱臼	肘関節後方脱臼の診察及び整復・固定③			ペア・グループ
10	上肢の脱臼	手第2指PIP関節背側脱臼の固定①			ペア・グループ
11	上肢の脱臼	手第2指PIP関節背側脱臼の固定②			ペア・グループ
12	上肢の脱臼	手第2指PIP関節背側脱臼の固定③			ペア・グループ
13	実技試験				個人
14	実技試験				個人
15	解説・再試				ペア・グループ
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験	100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)				
	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『包帯固定学』 改訂第2版 (南江堂)				
【参考書】	認定実技審査要領				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。			
【本講義についての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技セミナー(3/7)		片桐 秀樹			整形外科6年 接骨院4年 開業10年 担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	(210)	演習	7
【授業の概要・目的】					
三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①上肢の軟部組織損傷における診察および検査・固定能力、上肢の骨折における診察および整復・固定能力の向上を行う。 ②臨床的整復・固定を修得する。 ③認定実技審査の合格を目指すことを目標とする。 ④ ⑤				前に踏み出す力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	上肢の軟部組織損傷	肩腱板損傷の診察および検査			ペア・グループ
2	上肢の軟部組織損傷	肩腱板損傷の鑑別診断			ペア・グループ
3	上肢の軟部組織損傷	肩腱板損傷の固定法			ペア・グループ
4	上肢の軟部組織損傷	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察及び検査			ペア・グループ
5	上肢の軟部組織損傷	上腕二頭筋長頭腱損傷の鑑別診断			ペア・グループ
6	上肢の軟部組織損傷	上腕二頭筋長頭腱損傷の固定			ペア・グループ
7	上肢の骨折	上腕骨骨幹部骨折の診察および整復①			ペア・グループ
8	上肢の骨折	上腕骨骨幹部骨折の診察および整復②			ペア・グループ
9	上肢の骨折	上腕骨骨幹部骨折の診察および整復③			ペア・グループ
10	上肢の骨折	上腕骨骨幹部骨折の固定①			ペア・グループ
11	上肢の骨折	上腕骨骨幹部骨折の固定②			ペア・グループ
12	上肢の骨折	上腕骨骨幹部骨折の固定③			ペア・グループ
13	実技試験				個人
14	実技試験				個人
15	解説・再試				ペア・グループ
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験	100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修『柔道整復学・実技編』改訂第2版(南江堂)				
	(公社)全国柔道整復師協会 監修『包帯固定学』改訂第2版(南江堂)				
【参考書】	認定実技審査要領				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。			
【本講義についての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技セミナー(4/7)		片桐 秀樹			整形外科6年 接骨院4年 開業10年 担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	(210)	演習	7
【授業の概要・目的】					
三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①体幹の骨折、上肢の脱臼・骨折における診察および整復・固定能力の向上を行う。 ②臨床的整復・固定を修得する。 ③認定実技審査の合格を目指すことを目標とする。 ④ ⑤				前に踏み出す力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	体幹部の骨折	肋骨骨折の診察及び固定			ペア・グループ
2	体幹部の骨折	肋骨骨折の固定			ペア・グループ
3	体幹部の骨折	肋骨骨折の固定			ペア・グループ
4	体幹部の骨折	肋骨骨折の固定			ペア・グループ
5	上肢の脱臼	肘内障の診察及び整復			ペア・グループ
6	上肢の脱臼	肘内障の診察及び整復			ペア・グループ
7	上肢の骨折	第5指中手骨頸部骨折の診察及び整復①			ペア・グループ
8	上肢の骨折	第5指中手骨頸部骨折の診察及び固定①			ペア・グループ
9	上肢の骨折	第5指中手骨頸部骨折の診察及び整復②			ペア・グループ
10	上肢の骨折	第5指中手骨頸部骨折の診察及び固定②			ペア・グループ
11	上肢の骨折	第5指中手骨頸部骨折の診察及び整復③			ペア・グループ
12	上肢の骨折	第5指中手骨頸部骨折の診察及び固定③			ペア・グループ
13	実技試験				個人
14	実技試験				個人
15	解説・再試				ペア・グループ
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験	100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修『柔道整復学・実技編』改訂第2版(南江堂)				
	(公社)全国柔道整復師協会 監修『包帯固定学』改訂第2版(南江堂)				
【参考書】	認定実技審査要領				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。			
【本講義についての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技セミナー(5/7)		片桐 秀樹			整形外科6年 接骨院4年 開業10年 担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	(210)	演習	7
【授業の概要・目的】					
三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①下肢の軟部組織損傷、上肢の骨折における徒手検査および診察、整復・固定能力の向上を行う。 ②臨床的整復・固定を修得する。 ③認定実技審査の合格を目指すことを目標とする。 ④ ⑤				前に踏み出す力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	下肢の軟部組織損傷	ハムストリングス損傷(肉ばなれ)の診察及び徒手検査			ペア・グループ
2	下肢の軟部組織損傷	ハムストリングス損傷(肉ばなれ)の診察及び固定			ペア・グループ
3	下肢の軟部組織損傷	大腿四頭筋打撲の診察及び徒手検査			ペア・グループ
4	下肢の軟部組織損傷	大腿四頭筋打撲の診察及び固定			ペア・グループ
5	下肢の軟部組織損傷	膝関節側副靭帯損傷の診察及び徒手検査			ペア・グループ
6	下肢の軟部組織損傷	膝関節側副靭帯損傷の診察及び固定			ペア・グループ
7	下肢の軟部組織損傷	膝関節十字靭帯損傷の診察及び徒手検査			ペア・グループ
8	下肢の軟部組織損傷	膝関節十字靭帯損傷の診察及び固定			ペア・グループ
9	下肢の軟部組織損傷	膝関節半月板損傷の診察及び徒手検査			ペア・グループ
10	下肢の軟部組織損傷	膝関節半月板損傷の診察及び固定			ペア・グループ
11	下肢の軟部組織損傷	膝関節内側側副靭帯損傷のテーピング固定①			ペア・グループ
12	下肢の軟部組織損傷	膝関節内側側副靭帯損傷のテーピング固定②			ペア・グループ
13	実技試験				個人
14	実技試験				個人
15	解説・再試				ペア・グループ
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験	100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修『柔道整復学・実技編』改訂第2版(南江堂)				
	(公社)全国柔道整復師協会 監修『包帯固定学』改訂第2版(南江堂)				
【参考書】	認定実技審査要領				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。			
【本講義についての質問先】		科目責任者	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技セミナー(6/7)		高橋 洋一			接骨院 10年勤務 担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	(210)	演習	7
【授業の概要・目的】					
三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①下肢の軟部組織損傷における徒手検査・固定能力、下肢の骨折における診察および整復・固定能力の向上を行う。 ②臨床的整復・固定を修得する。 ③認定実技審査の合格を目指すことを目標とする。 ④ ⑤				前に踏み出す力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	下肢の軟部組織損傷	膝関節半月板損傷の診察及び徒手検査			グループ
2	下肢の軟部組織損傷	膝関節半月板損傷の診察及び固定①			グループ
3	下肢の軟部組織損傷	膝関節半月板損傷の診察及び固定②			グループ
4	下肢の軟部組織損傷	下腿三頭筋損傷の診察及び徒手検査			グループ
5	下肢の軟部組織損傷	下腿三頭筋損傷の診察及び固定			グループ
6	下肢の軟部組織損傷	アキレス腱断裂の診察及び徒手検査			グループ
7	下肢の軟部組織損傷	アキレス腱断裂の診察及び固定①			グループ
8	下肢の軟部組織損傷	アキレス腱断裂の診察及び固定②			グループ
9	下肢の骨折	下腿骨骨幹部骨折の診察及び整復①			グループ
10	下肢の骨折	下腿骨骨幹部骨折の診察及び固定①			グループ
11	下肢の骨折	下腿骨骨幹部骨折の診察及び整復②			グループ
12	下肢の骨折	下腿骨骨幹部骨折の診察及び固定②			グループ
13	実技試験				個人
14	実技試験				個人
15	解説・再試				個人
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験	100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)				
	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『包帯固定学』 改訂第2版 (南江堂)				
【参考書】	認定実技審査要領				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。			
【本講義についての質問先】		科目責任者	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技セミナー(7/7)		長坂 愛			一般 担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	前期	(210)	演習	7
【授業の概要・目的】					
三年間の柔道整復実技を総合的に理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①下肢の軟部組織損傷における徒手検査、診察および固定能力の向上を行う。 ②臨床的整復・固定を修得する。 ③認定実技審査の合格を目指すことを目標とする。 ④ ⑤				前に踏み出す力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷の診察及び徒手検査			ペア
2	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷の診察及び固定①			ペア
3	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷の診察及び固定②			ペア
4	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷の診察及び固定③			ペア
5	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定①)			ペア
6	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定②)			ペア
7	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定③)			ペア
8	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定④)			ペア
9	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定⑤)			ペア
10	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定⑥)			ペア
11	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定⑦)			ペア
12	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定⑧)			ペア
13	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷(テーピング固定⑨)			ペア
14	実技試験				個人
15	解説・再試				個人
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験	100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修『柔道整復学・実技編』改訂第2版(南江堂)				
	(公社)全国柔道整復師協会 監修『包帯固定学』改訂第2版(南江堂)				
【参考書】	認定実技審査要領				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		認定実技審査要領を熟読し、1項目ごとしっかり理解する。			
【本講義についての質問先】		科目責任者	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床実習Ⅲ		学科教員		一般	担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	通年	45(90)	実習	2
【授業の概要・目的】					
臨床現場で柔道整復師として必要なマナー、知識、技術を学ぶ					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師の業務の流れを理解する ②医療人としてのマナーおよび注意点を学ぶ ③問診、検査、治療(物理療法)を行なう上での注意点を学ぶ ④ ⑤				専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル チームで働く力 考え抜く力 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1					グループ
2					グループ
3					グループ
4					グループ
5					グループ
6					グループ
7					グループ
8		接遇、受付業務、カルテ準備と確認、患者誘導、ベッドメイク、後片付け、タオルワーク、 施術の準備、医療面接や施術の補助、バイタル・体力測定 of 補助、物理療法機器の操作			グループ
9					グループ
10					グループ
11					グループ
12					グループ
13					グループ
14					グループ
15					グループ
期末試験	レポート提出	評価方法	レポート 受講態度	80% 20%	
【教科書】	柔道整復学・実技編 改訂第2版、柔道整復学・理論編 改訂第6版				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		解剖学、生理学などの基礎医学知識			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床実習Ⅲ		学科教員		一般	担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	3	通年	45(90)	実習	2
【授業の概要・目的】					
臨床現場で柔道整復師として必要なマナー、知識、技術を学ぶ					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師の業務の流れを理解する ②医療人としてのマナーおよび注意点を学ぶ ③問診、検査、治療(物理療法)を行なう上での注意点を学ぶ ④ ⑤				専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル チームで働く力 考え抜く力 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1					グループ
2					グループ
3					グループ
4					グループ
5					グループ
6					グループ
7					グループ
8		接遇、受付業務、カルテ準備と確認、患者誘導、ベッドメイク、後片付け、タオルワーク、 施術の準備、医療面接や施術の補助、バイタル・体力測定補助、物理療法機器の操作			グループ
9					グループ
10					グループ
11					グループ
12					グループ
13					グループ
14					グループ
15					グループ
期末試験	レポート提出	評価方法	レポート 受講態度	80% 20%	
【教科書】	柔道整復学・実技編 改訂第2版、柔道整復学・理論編 改訂第6版				
【参考書】					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		解剖学、生理学などの基礎医学知識			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	